

入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>

ふるさと枠の受験を検討している方を 対象としたセミナーを実施します！

広島大学医学部および広島県は、県内の地域医療およびふるさと枠制度について理解を深めることができる「広島県地域医療セミナー」を開催しています。

セミナーの受講がふるさと枠入試の出願要件となりました。

ふるさと枠の受験を検討している方はぜひご参加いただようお願いいたします。

今年度の開催日

2025年 6月14日(土)、9月27日(土)、11月8日(土)
【第二次申込締め切り】9月27日(土)

詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当：広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ(医学部担当)

電話：082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当：広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座

電話：082-257-5894

<http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学地域医療システム学講座

検索



広島県

奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52

担当：広島県健康福祉局医療介護基盤課

電話：082-513-3062



広島県医師育成奨学金

検索

ふるさとの医療を担う！

2026年度 広島大学医学部医学科

ふるさと枠のご案内



広島大学



広島県
Hiroshima Prefecture

地域医療を担う医師の育成について



広島大学長 越智 光夫

することができます。

このふるさと枠では先進的な医療にも取り組みます。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島の医療に強い関心を持ち、広島県内で医療人として活躍したい、医療を通じて地域社会に貢献したいという熱い志を持つ方を広島大学は全力で応援します。

どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

今日、わが国における急速な少子高齢化の進行や大都市圏への人口集中は、地方の活力低下を招いています。広島県も人口の県外流出などが顕著になっていますが、特に中山間地域において医療を担う医師や、県内の特定の診療科医師の不足が大変深刻な状況にあります。厚生労働省による令和4年度の無医地区等調査においても、広島県は依然として全国で2番目に無医地区数が多い県となっております。

こうした中、広島大学は、県内唯一の医師養成機関として、平成21年から広島県と連携し、県内に優秀な医療人材を輩出するための「ふるさと枠入試」を設けています。これまで284人が入学し、そのうち176人が巣立っており、現在、県内の公的医療機関等で研修や実地臨床に励んでいます。

ふるさと枠で入学した学生には、通常の医学教育カリキュラムに加え、毎週1回開かれるふるさとセミナー、夏や春の地域医療実習、冬の合宿など多くの行事があります。これらを通じて先輩や後輩らと世代を超えた強い絆が育まれ、心身ともに大きな成長が期待でき、より充実したキャンパスライフを過ごすことができます。

ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事 湯崎 英彦

是非、みなさんも、高い志と熱い想いを持って「ふるさと枠」を目指していただき、本県の地域医療の活性化を担う人材として活躍されることを願っています。

広島県では、総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる広島県の実現」を目指して取組を進めています。

山間部や島嶼部等からなる中山間地域が広い本県では、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

そのような中、「ふるさと枠」制度によって、これまでに176名が卒業し、現在、臨床研修を修了した130名が県内各地で勤務を開始しています。そのうち49名が中山間地域の医療現場で、また21名が医師不足の特に著しい診療科で活躍するなど、県内地域医療の現場において大きな役割を担う存在となっています。

また、本県では、広島大学に「地域医療システム学講座」を設置し、地域医療を担う医師の育成に精力的に取り組んでいます。

2009年の制度開始から現在まで、**176名**の卒業生を輩出しています

各学年**18名**の学生が在籍中です

2015年～2025年累積ふるさと枠医師国家試験合格率は**97.2%**です
(広島大学医学部医学科は88.6%です)

「広島地域医療を支えたい」という想いを、ふるさと枠でより確かな形にしませんか



地域医療の充実、今後の日本の医療の重要課題の1つです。広島大学医学部では、広島県と協力し、ふるさと枠の学生が医師としての確かな実力を養えるだけでなく、豊かな人間性や地域への愛情を育むことを目的として教育を行っています。

令和7年度は、広島大学医学部ふるさと枠を卒業し初期臨床研修を終了した若手医師130名が県内各地の医療機関に着任し、地域医療を支えています。

ふるさと枠出身の医師は、県内のすべての研修指定病院でも初期研修を受けることが出来ますし、その後いずれの専門医プログラムも選択することが出来ます。どの道に進むにせよ、その知識と特性、能力を活かして、地域医療に貢献してくれることを期待しています。

広島大学のふるさと枠の学生は、医療のみならずあらゆることに対して意識が高く、勉学のみならず課外活動でも活躍しているのが特徴です。

地域医療を支えようという気概に溢れるふるさと枠を目指す学生が、数多くこの枠に応募/挑戦されることを願っています。

広島大学医学部長 志馬 伸朗

みなさんの学生生活を応援します！



我々地域医療システム学講座の教員はふるさと枠学生の担任として、皆さんが充実した学生生活を過ごせるよう、進路に夢を持てるよう、一人一人の思いを聞きながら手厚い教育を行っています。また卒業後もキャリア支援を通じて、一人一人の卒業生と継続的に関わっております。一年生として入学してきた初々しい学生が、立派な医師となって地域住民の命を支え、無事に義務年限を修了していく姿を見ることができるのは、我々にとってこの上ない幸せです。これからふるさと枠の輪に加わってくれる、新しい仲間をお迎えすることを、教員一同大変楽しみにしております。

広島大学地域医療システム学講座教授 松本 正俊



地域で学び、 地域で生きる医師を 目指しませんか？

「地元で医師になりたい」という思いを胸に
ふるさと卒を選んだ私だからこそ伝えたい。
挑戦してみれば、必ず未来は開けます。



私は呉市の焼山という所で生まれ育ちました。父が医療従事者であったため小学生の頃から医師になりたいという目標を持っていました。地元愛が強かったため中学生の頃には広島大学医学部を志望するようになりました。中学・高校では吹奏楽部に所属しサクソとクラリネットを吹いていました。高校生のときにジャズの全国大会に出場し特別賞を受賞したのは良い思い出です。高校のときに先輩や先生から「ふるさと卒」という選択肢を教えてもらい、意識するようになりました。私が住んでいた焼山は呉市と熊野町の境の山の中にあり、祖父母の家も東広島市の河内町という田舎であったため、中山間地の医療に関わることに違和感が無かったこともあり、最終的にふるさと卒を受験し、入学することができました。

広島大学での6年間はよく遊んでいました。どちらかというと講義に熱心に取り組むタイプではなかったため、科目の本試験に落ちて追試験を受けないといけな場面が多々あったのですが、「ふるさと卒の仲間」と「高校の同級生」という2大コミュニティに助けられて、なんとかストレートで卒業することができました(笑)。一方で、ふるさと卒の活動はとても良い経験になりました。毎週の「ふるセミ」で仲間との絆を深めることができましたし、休暇中の実習では医療現場に触れる機会が多かったです。私は高校生の頃から在宅看取りで有名な北広島町雄鹿原診療所の東條環樹先生に憧れていたのですが、ふるさと卒の実習で直接お会いし、往診に同伴することもでき、感激しました。こういった活動を通して良い医師になりたいというモチベーションを高めることができました。

卒業後の臨床研修は三次中央病院で行いました。ふるさと卒の臨床研修は広島市など都市部で行っても問題ないのですが、私は希望して中山間地の三次中央病院を選びました。理由は地域の最前線の病院のほうが実力を磨けますし、ふるさと卒の先輩がたくさんいて教えてもらいやすい環境だと考えたからです。研修医の数が少なかったのも、たくさんの患者さんを診ることができ、希望の診療科を自由にローテーションさせてもらいました。病院の福利厚生も素晴らしかったです。三次の市街地が私の故郷の焼山よりも遥かに都会だったのが意外でした。

2年間の臨床研修後は腎臓内科を自分の専門として選びました。腎臓内科は腎臓という臓器を通して全身を診ることができ、また透析という治

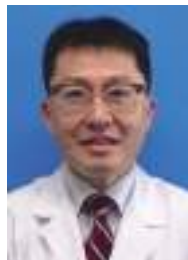


國原 蒼士 先生 腎臓内科

呉市出身、広島学院高校卒、令和4年：広島大学卒
令和4年～6年：市立三次中央病院臨床研修、令和6年～：庄原赤十字病院腎臓内科勤務

療を介して腎不全の患者さんの一生に寄り添うことができる魅力的な診療科です。現在私が勤務している庄原赤十字病院の医師数は三次中央病院の半分以下で、スタッフ同士の風通しがよく、院長先生にも気軽に相談できてしまうようなアットホームな雰囲気があります。ふるさと卒を中心に若手医師や同年代のコメディカルの仲も良く、よく一緒に遊びに行っています。ただ遊ぶお店は三次よりも圧倒的に少ないです(笑)。一方で腎不全の患者さんが多く、実は透析患者数は三次中央病院よりも多いくらいです。その意味で腎臓内科医としての経験も都市部と比べて遜色なく積むことができます。庄原には無医地区が多く、移動診療車でこれら地区の巡回診療を行っています。私も時々行くのですが、医療の無い場所で、移動診療によって辛うじて生活が成り立っている住民の方達を見ると、私のような若い医師一人であってもその役割が極めて大きいことを実感します。

医師はとてもやりがいのある仕事です。私は人とコミュニケーションするのが好きなタイプなので、地域医療は自分にすごく向いていると感じています。ふるさと卒を選ぶということは、大学6年間および卒業後9年間の計15年間で決定付ける大きな決断になります。正直、私も入学後に「本当にふるさと卒で良かったのか」と悩んだことがありました。ですが、こうして中山間地に来て、楽しく仕事できているという事実を踏まえると、この選択が自分にとって正しかったのだらうと思っています。私のようなタイプの人で、ふるさと卒の受験を考えている皆さんには「自信を持って挑戦して」と言ってあげたいです。



庄原赤十字病院 院長 鎌田 耕治 先生

國原先生は、専門の腎臓領域だけでなく、幅広く内科全般の診療、無医地区診療など地域に根差した医療を行っています。医療人として、また社会人としても日々確実に成長し、当地域になくてはならない存在となっています。



安佐市民病院 病理診断科 神原貴大 (2期生 2016年卒)

【勤務先】県立広島病院(初期研修)→広島大学病院→安佐市民病院(2024年度 義務終了)

〈義務年限を終えて〉

ふるさと卒では広島県の医療への理解を、地域医療を中心に広い視点で深めることができます。自分の将来像を具体的に思い描きやすいため、医師として広島の医療に関わりたければ先ず先行して不安だ、という方にこそお勧めです。私は講義や実習の経験も踏まえ、中山間地域同様に医師不足が続き、知事指定診療科となっている病理診断科の医師として県の医療を支える道を選びました。病理診断科では患者さんの診療と密接に関係する病理診断や、病気の本質と向き合う研究、あるいは病理解剖をおこなっており、興味の尽きない領域であると私は実感しています。医師としてどのように広島に関わりたいか、ふるさと卒でじっくり考えてみませんか？同志として働ける日を楽しみにしています。

厚生労働省老健局 松岡見咲 (4期生 2018年卒)

【勤務先】広島大学病院(初期研修)→広島市立リハビリテーション病院
→広島大学病院→公立みつぎ総合病院→公立世羅中央病院→厚生労働省(義務中断中)

初期研修終了後、広島市立リハビリテーション病院、広島大学病院、公立みつぎ総合病院、公立世羅中央病院で勤務しました。中山間地域では医療・福祉資源が限られている地域で生活している患者さんも多く、患者さんの希望を叶えるためには、病気の治療だけでなく、より患者さんの生活に近い部分のサポートも必要となります。訪問診療などで実際の生活環境を見たり、患者さんや家族さんの話を聞いたりしながら、患者さん一人ひとりに合った診療を行えるように心がけています。現在はこれまでの経験を活かし、厚生労働省で勤務しています。



市立三次中央病院 小児科 今岡亜理紗 (4期生 2018年卒)

【勤務先】広島大学病院(初期研修)→中国労災病院→広島市立広島市民病院
→広島大学病院→市立三次中央病院

私は広島県の中でも最も多くの無医地区を抱える庄原市で生まれ育ちました。大学進学を機に故郷を離れるまでの間、医師不足による診療科の休止や医療機関の閉鎖は常に身近な問題でした。そのような中、地域医療に携わりたいという決意をもった仲間と出会うことが出来たことは、大変心強いことでした。すでに多くのふるさと卒の医師が地域で活躍する姿を見ると僻地出身者としては感謝の思いもあり、私自身もそれに続けるように日々の診療に取り組んでいきたいと思っています。

呉医療センター・中国がんセンター 産婦人科 西本祐美 (6期生 2020年卒)

【勤務先】広島大学病院(初期研修)→広島赤十字・原爆病院(初期研修)
→JA広島総合病院→市立三次中央病院→広島大学病院→呉医療センター・中国がんセンター
※10月より市立三次中央病院

広島大学病院・広島赤十字原爆病院で初期研修を行い、以降は産婦人科医として広島県内の様々な病院で研修をおこなっています。医師として働いてみると、ふるさと卒出身の先生方の多さに驚かされます。どの診療科に進んだとしても、ふるさと卒でできた年代や科を超えた繋がりや医師として働いていくにあたって大きなプラスになると思います。広島のがんが大好きな皆様に来てくださることを心待ちにしています。



知事の指定する中山間地病院 (4年間勤務)

※県内の公立診療所も知事の指定する医療機関に含まれます。



庄原赤十字病院



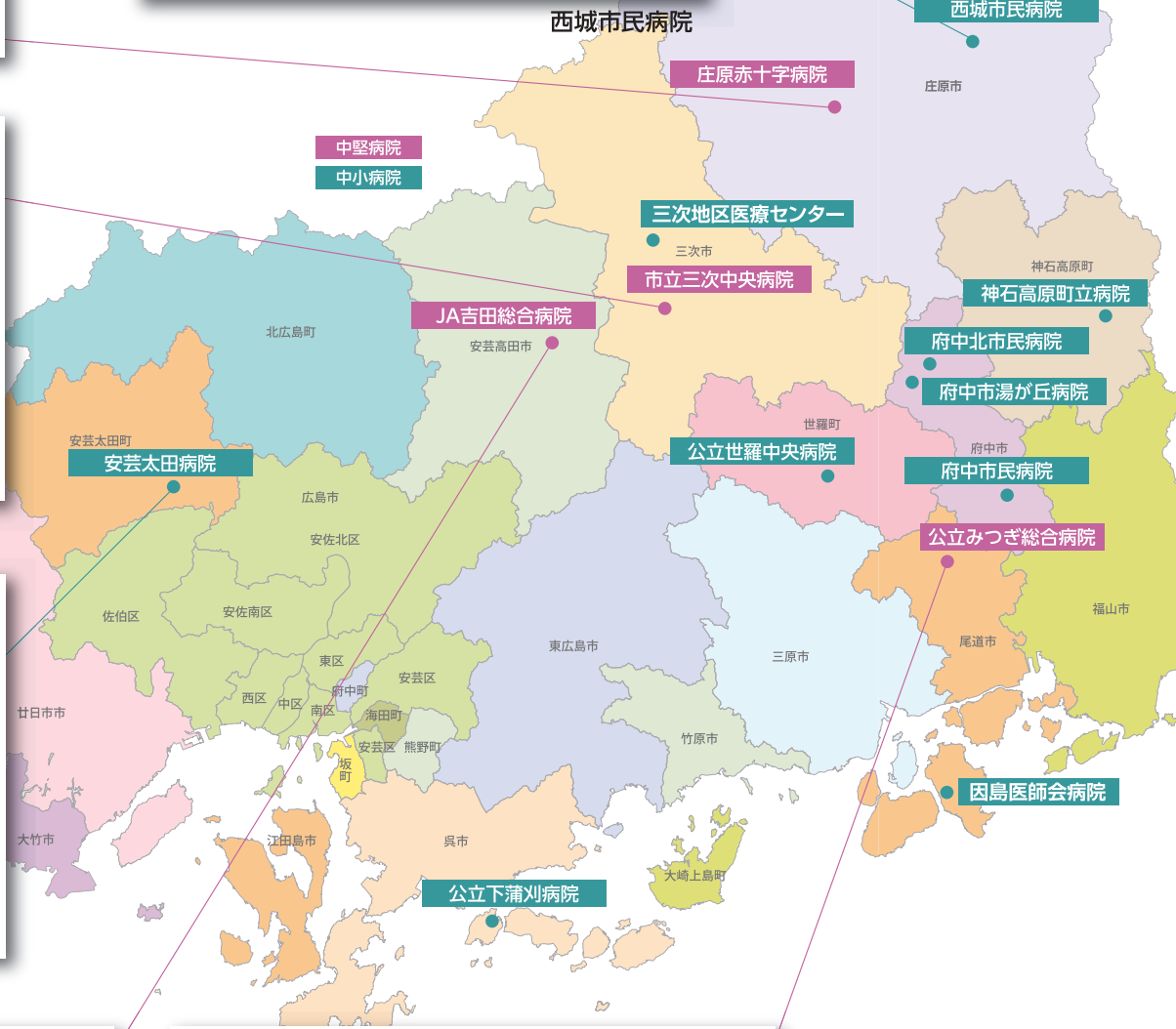
市立三次中央病院



安芸太田病院



JA吉田総合病院



公立みつぎ総合病院

進路に関する基本方針

臨床研修は広島県内の公的臨床研修病院で行います。
卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします。
中山間地の4年間は総合医を原則としますが、医療機関からの要望があれば専門科医として勤務します。

令和7(2025)年度 ふるさと卒医師勤務状況(卒後3年目以上)

診療科名等	中山間地域指定医療機関														中山間地域以外の医療機関	計	
	中堅病院				中小病院									公立公的診療所			小計
	公立みつぎ総合病院	市立三次中央病院	庄原赤十字病院	J A 吉田総合病院	公立下蒲刈病院	府中市市民病院	府中北市民病院	府中市湯が丘病院	西城市民病院	安芸太田病院	公立世羅中央病院	神石高原町立病院	三次地区医療センター				
総合内科・総合診療科			1												1	3	4
消化器内科		2	1							1	1				1	6	15
呼吸器内科		1									2					3	4
内分泌・糖尿病内科		2								1						3	4
腎臓内科		2	1													3	4
脳神経内科	1									1	2					4	6
循環器内科		2	2							1	1		1			7	13
リウマチ・膠原病科		1														1	2
血液・腫瘍内科																	1
皮膚科		1		1												2	4
精神科				1												1	4
外科																	2
消化器・移植外科				1												1	2
腫瘍外科		2														2	3
外科（外科専攻医）																	2
整形外科		1									1					2	3
形成外科				2							1					3	3
腎泌尿器科		1														1	3
脳神経外科		2														2	3
放射線診断科																	1
放射線治療科																	1
麻酔科		2									1					3	5
救急集中治療科		1														1	7
リハビリテーション科	2										1		1			4	8
その他																	2
小 計	3	20	5	5						4	10		2		1	50	106
産科婦人科(知事指定)		2														2	13
病理診断科(知事指定)																	
小児科（知事指定）		3														3	9
計	3	25	5	5						4	10		2		1	55	128
(参考)令和6年度	3	24	5	4						4	8				1	49	117

※ 中山間地域以外の医療機関
広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、広島大学病院(広島市)、県立広島病院(広島市)、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、広島市立北部医療センター安佐市民病院(広島市)、安芸市民病院(広島市)、県立二葉の里病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、中国労災病院(呉市)、呉医療センター(呉市)、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、JA尾道総合病院(尾道市)、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、JA広島総合病院(廿日市市)、東広島医療センター(東広島市)、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立総合リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)

※ 赤字は現在勤務中の医療機関です。(2025.09現在)

年間スケジュール

ふるさとセミナー(ふるセミ)

(通年・毎週水曜日)

ふるさとセミナー

㊦ ふるセミは毎週水曜日に開かれる会合で、実際の医師の方のお話を聞いたり、地域医療について理解を深めることのできるゲームをしたり、ふるさと枠同士での交流などなど、ふるさと枠でしかできない体験をすることができます。(2年生)



㊦ 昨年度は幹部学年としてふるセミの企画を考えることがあり、とても良い機会になりました。3年生企画も楽しく参加出来たのと、先生方のお話も色々聞いて有意義なふるセミだったなと改めて思いました。(4年生)

㊦ 3年生企画で学年を超えて交流したり、ふるさと枠や自治医科大学出身の先生の講演を聞いて将来の働き方を考えたりすることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、中山間地域の診療所や病院の先生の話のを伺うことができ、広島の地域医療の問題点や、それに対してどのように取り組んでいるのかを知ることができたのでよかったです。(4年生)

㊦ 普段はあまり関わることもない学年の人や同級生とグループを組んで、一緒に弁当を食べながら企画を楽しんだり、地域医療についての理解を深めることができるのは、ふるさと枠ならではの魅力だと思います。(4年生)

㊦ 今年から3年生企画を考える学年となりました。過去の先輩方が行ってきた企画はどれも素晴らしいもので、新しく考えるのがとても難しいですが、どうしたらみんなが楽しく交流して学習することができるかを考えることは意外にも楽しく、企画力がついたように感じます。(3年生)



夏実習

夏実習

■ 夏実習は3～4人のグループに分かれて中山間地の病院に赴き、1泊2日の病院実習を行います。

実際に医療従事者と患者、地域住民の方々との関わりを肌で感じることができます。また、一年生から夏実習に参加することで、早い段階から将来のビジョンを明確にすることができます。



㊦ 実習先の先生をはじめ、医療従事者の方々との出会いがあることが魅力だと思います。また、自分で実習先を選ぶことができるので、県内のさまざまな病院、診療所を学生のうちに見ることができず。(4年生)

㊦ 公立世羅中央病院では、外来見学、世羅町職員の方によるセミナー、縫合体験実習などを行いました。また、ふるさと枠出身の先輩医師の方とも交流し、自身のキャリアプランの参考になるお話も聞くことができました。非常に濃い二日間でした。(4年生)



実際の現場を見学したり体験したりできるので、これからのビジョンなどを考えるのに非常に役に立ちました。



㊦ 訪問看護に同行させていただきました。まだ一年生で分からないことばかりですごく不安でしたが、とてもいい経験になりました。看護師の方の、相手の話をしっかりと聞き会話をしつつ、必要な情報を聞くという話し方がとても印象的でした。患者さんに頂いた「頑張っていていいお医者様になってください」という言葉を思い出すと、やる気が出て頑張れます。(2年生)

㊦ 夕食会で自治医科大学出身の医師の方から、学生時代の話や医師として経験した地域特有の話聞かせていただきました。地域で働く医師としての生活が垣間見えた楽しい時間でした。(3年生)

㊦ 訪問診療、薬包作り、レントゲン等の様々な体験を1年生のうちからさせていただきました。まだ専門知識もないまま実習に行くことが不安でしたが、学年関係なく平等に機会を与えて下さった事がとても嬉しかったです。1番印象に残っているのは、患者さんからの信頼が常に感じられることです。専門性とは関係なく、患者さんの相談であればできる限り調べて提案をしたり、不安を取り除けるようにしたりする姿を見て背筋が伸びる思いでした。(2年生)

㊦ 初めて泊まりで2日間、病院見学ができたのでとても勉強になりましたし、楽しかったです。班の人とも交流ができて良かったです。(5年生)

実際の医療現場を初めて医療者側として見学し、地域医療の最前線を見ることで医療に対する考えが変わりました。



㊦ 医学科でこんなにたくさんの病院から選んで見学に行ける機会はなかなか無いので、臨床医を目指す人にとっては貴重な体験ができると思いました。将来の具体的なイメージや実際の医師の診療を間近に見れて、座学では得られないことをたくさん学びました。(3年生)

冬合宿

冬合宿

㊦ 令和6年度の冬合宿は尾道市御調町で1泊2日で開催されました。

講演では、医師としてのリアルなお話から学生時代のお話まで多岐にわたり、自身の将来のイメージができたという学生が多くいました。(3年生)

他学年との交流も盛ん！
学びと遊びが
程よく織り交ぜてある！



夕食は立食形式で行われ、先生方や県の職員の方、学生同士で楽しく交流することができました。2日目は学生企画で、映画鑑賞と映画に関するグループワークを行いました。班によって意見が様々で、とても有意義でした。(2年生)



新年度

春実習

春実習

㊦ 春実習は1年生から4年生までが参加する1泊2日の病院実習です。地域での暮らしを支える診療所から地域包括ケアシステムの中心を担う大病院まで実習先は幅広く、どの医療機関に行くかは自分で選ぶことができます。少人数で行くためより深い学びができ、実習内容に医療機関ごとの特色が出るのも面白いポイントです。

私が同った医療機関は総合診療科が強いと言われていたところ、総合診療科の1日に密着して、朝のカンファレンスから救急外来の様子まですべて見せていただくことができました。(3年生)

㊦ 先生方や患者さんとの距離が近く、どれだけ大切でやりがいがある仕事かというのを肌で感じられるのも春実習の良いところだと思います。(4年生)



学びたいことを学べる！
将来に繋がる出会いがある！



卒業生送別会

卒業生送別会

■大学、県庁、地域医療支援センターなど関係者一同が集まって、盛大に卒業をお祝いします。

㊦ 松本教授から記念品も贈呈されました。(4年生)

面談、進路説明会なども！

㊦ 1年生と4年生の時に面談があり、学生数人と先生方で面談します。大学や生活で不安なことでも親身に相談に乗ってください。

進路説明会では初期研修先の病院のことや、将来的なキャリアプランについても詳しく説明していただけます。(5年生)



知事激励会

■3月末に広島県庁で行われます。県知事を始め、多くの広島県関係者から激励の言葉を頂きます。

㊦ 緊張していた部分もありましたが、気を引き締めるきっかけにもなりました。(2年生)

㊦ 自分が故郷のために活動する一員であるという実感がより深くなりました。(2年生)



知事激励会

新入生歓迎会

新入生歓迎イベント

■知事激励会の後、新1年生～新4年生で新入生歓迎のボウリング大会を開催します。入学後は、BBQ大会などで親睦を深めます。

㊦ ボウリングを通して、これから6年間を共にする同級生や在校生の先輩方と交流を深めました。成績優秀な参加者には豪華景品があり、大いに盛り上がりました！スーツでのボウリングは少し戸惑いもありましたが、先輩や同級生との交流のきっかけにもなりました。学校での生活のことや、勉強面のことなどを先輩に聞く新入生の姿も見られました。(2年生)



色々な先輩にも話しかけやすく
楽しかったです！

㊦ 入学後のBBQ大会は、新入生や在校生だけでなく、地域医療システム学の先生方も参加されます！おいしいお肉や焼きそば、ピザを楽しみながら、普段の大学生活とは違った一面を見ることができたり、これまで話したことのなかった同級生や先輩と仲良くなるきっかけになったりと好評のイベントとなっています！(5年生)



美味しいお肉やピザ、焼きそばを食べながら、
アットホームな雰囲気、楽しく楽しかったです！
このイベントをきっかけに仲良くなれました！

3年生 田村結子

私は1年間様々なイベントや実習を経て幅広い年代の方々と交流ができるという点が、ふるさと卒で入学した際の大きな違いの一つであると感じました。部活やサークルでの関わりとは違い、地域医療を支えるという同じ信念を持った人たちと深い縁を持てるのはふるさと卒で入学した学生ならではの財産であると考えます。皆さんと楽しく地域医療を学んで成長できる日々を楽しみにしています！

ふるさと枠 学生の声

地域に支えられ、地域を支えていく学びの中で育まれた、
学生たちの等身大の声を集めました。



医学科6年生 沼田義輝

皆さんはふるさと枠についてどういった印象をお持ちでしょうか。ふるさと枠の魅力として、広島県の地域医療について理解を深めるだけでなく、多学年の交流で刺激を受けたり、働いておられる先輩方のお話を聞く機会が多くあったり、実際に医療現場での学習機会が多くあったりなど挙げられます。多くの方のサポートの下で充実した活動ができる場所です。みなさんと活動できる日を楽しみにしています！



医学科6年生 森川実咲

私が感じるふるさと枠の魅力は、「繋がり」と「機会の充実」です。同級生はもちろん、学年の違う学生や既に活躍されている先生方との交流の輪も広がりました。また、毎週のふるセミでは昼食を取りながら地域医療について楽しく学び、長期休暇中の地域実習では、早い段階から現場を目の当たりにできます。ぜひ一緒に広島県の地域医療について考え、充実した学生生活を送りましょう！



医学科5年生 細田健太郎

私が感じるふるさと枠の魅力の一つとして、現場の医師の方のお話を聞く機会に恵まれているということが挙げられます。地域医療実習では、ふるさと枠出身の先生と直接話す機会もあり、在学中の勉強や部活の話から、進路の決め方、診療科の特徴など、在学中の早い段階から様々なお話を聞けるのは、とても魅力的だと感じています。ぜひふるさと枠と一緒に活動していきましょう！



医学科5年生 伊藤潤

ふるさと枠の魅力としてみんなで地域医療について学ぶ機会が多く設けられているということが挙げられると思います。毎週ふるせみでは学年を越えてみんなが集まり、食事をしながら楽しく学びのある企画を行います。また、夏・冬には実際に病院へ行き、様々な体験を行うことで地域医療についての理解を深め、将来医療に携わるイメージを持つことができるようになります。



医学科5年生 小村奏喜

入学してから私が感じたふるさと枠の魅力は早い段階から将来のことについて考えられる点です。1年生の時から病院実習に参加させていただき、地域医療を実際に担っている方々と交流する中で、自分が将来地域で働くイメージをより具体化できました。少しでもこのパンフレットを見てふるさと枠に興味を持った皆さん、来年度ふるさと枠の仲間としてお会いできることを楽しみにしています！



医学科5年生 香川愛理紗

魅力が尽きないふるさと枠ですが、例えば1年生のうちから実習に参加し、地域医療の生の現場に触れさせていただくことができる点はとても大きな実りになっていると思います。また、学年を超えた交流ができ、ときには先輩医師の方のお話を伺うこともできるふるセミが毎週開催されることで充実した大学生活を送ることができます。皆さんともふるセミでお会いするのを楽しみにしています！



医学科4年生 田中恭佑

ふるさと枠における1番の魅力は、周りの人間関係に恵まれることです。入学時からボウリング会やBBQ会などの歓迎会があり、同級生はもちろん、先輩方そして先生方とも厚く交流をすることができます。また毎週行われるふるさとセミナーでの企画や病院実習においては、交流だけでなく地域医療について深く学ぶことができ、多くのふるさと生から好評となっています。同じ志を持った仲間ということもあり、普段からふるさとのみんなで勉強したり遊んだりということが多く、みんなでサポートしていくという思いが強いです。素晴らしい仲間たちが待っています！ふるさと枠でお会いできるのを楽しみにしております。



医学科4年生 青木なのは

私が思うふるさと枠の魅力の一つとして一年生から経験の機会に恵まれていることです。具体的に地域医療実習では実際に伺うことで病院や地域について知り、実際に行かないと分からない発見や学びを得ることができます。こういった経験は学生の早い段階からなかなかできるものではありません。来年度皆さんとふるさと枠と一緒に活動できることを楽しみにしています！



医学科3年生 佐藤一真

僕がふるさと枠に入って最も魅力的に感じたことは、人とのつながりの多さです。ふるさとセミナーや夏セミナーなどに多くの先輩、後輩と交流することができます。ふるさと枠を卒業し広島で活躍されている先輩方のお話を聞く機会も多くあり、自分の目標や将来について考えることができます。このパンフレットを手にとってくれた皆さんとふるさと枠で会えることを楽しみにしています！



医学科3年生 金井奏真

ふるさと枠の強みとして、将来について考える機会を早期から持てることが挙げられます。具体例として、中山間地域での医療の現状について知ることのできる夏期や春期のセミナー、現場で勤務されている先生方のお話を聞き、卒後のキャリアについて考えるきっかけにもなる冬セミナーなどがあります。また、他学年間での関わりも多くあり、卒後のキャリアなどについて相談するネットワークの基盤になり得ると感じています。

ふるさと枠 座談会

※学年はインタビュー当時のもの

ふるさと枠では、卒後勤務する中山間地域の医療について学び、将来像を描けるように、入学直後から独自のプログラムが準備されています。毎週水曜日昼休憩に全員で行うふるさとセミナー（ふるセミ）は、学年混合グループでランチをしながら交流を深めたり、現場で勤務している医師の講演を聞くことができる貴重な機会です。その他のセミナーについて、ふるさと枠の学生に語ってもらいました。



5年 沼田義輝

ふるさと枠として
自分の成長が期待されて
いるんだなって嬉しく思いました。



3年 田中恭佑

患者さんの心を掴みにいくのが
地域医療ですごく重要だなって
分かりました。



3年 青木なのは

みんな、広島地域医療を
支えたいっていう同じ夢があるから、
すぐに相談できるし、そういう体制
も学習の機会もあります。

地域医療への思いを新たにした夏実習

司会 夏実習はどうでしたか？

沼田 各医療機関で全然やるのが違って、そこが魅力かなと思います。自分は自治医大の学生2人とふるさと枠2人の4人で総領診療所に行ったんですけど、地域住民の方を対象に健康講座をさせて頂きました。

青木 私は公立世羅中央病院に行きました。（そこで勤務している）ふるさと枠の先生方とお話して、進路の相談をしたり。思ったよりアットホームで、待合室の患者さんとお話をさせて頂いたり。夜の食事会では、プライベートではこんなことしてるよとか、子育て中は時短勤務で働けるよとか。本当に貴重な貴重な経験でした。ふるさと枠だからこういう実習に行かせて頂けたので、有難いなって思います。

田中 僕は沼隈病院に行きました。院長先生の「この沼隈病院で治せない病気はないっていう病院にする」という熱い思いを夜の食事会でワインを交わしながら聞かせて頂いて。地域医療っていうのは最先端じゃないっていうイメージが、周りにはあるのかなっていうふうに思ってた、でも、院長先生の「いや最先端を走っているのが地域医療なんだ」という言葉に感化されて。みんながそういう自信を持って将来働けたらいいなって思いました。

冬合宿ではグループワークで盛り上がった

司会 1泊2日で行った冬合宿はどうでしたか？

全員 楽しかったです！

司会 医師による講演会では、市立三次中央病院からふ

るさと枠卒業医師である産婦人科の張本先生、救急科の松本先生をお招きしましたね。

青木 張本先生のお話を聞いて、具体的な将来像が湧いてきたなって。年齢が近いふるさと枠の先輩の話を知ることができたのは、大きかったなと。いろんな科に興味を湧いて、将来の選択肢が増えたっていう。

田中 お二人とも明るく活発にお仕事をされているので、将来そういった職場があちこちにあるのかなあっていう期待感が湧きましたし、そんなお医者さんになりたいなっていうイメージが描けました。

司会 夜は庄原日赤病院、西城市民病院、市立三次中央病院の院長先生、副院長先生や、演者の先生方を囲んでお食事をしましたね。

青木 お食事会では、先生方に喋りかけに行きました！

沼田 えっ！？

青木 だって、学生で院長先生と話せる機会ってないなと思ったので。学生の時はこうだったよ、今はすごく恵まれるよとか、地域医療支援センターの方からは、（ふるさと枠）制度に関して更に教えて頂いて。みんなにそれを情報共有したり、もう1回聞きに行ってみようとか。

沼田 僕は以前に庄原（日赤病院）で病院実習をさせて頂いたので、お世話になりましたって挨拶に行ったら、覚えていて下さって。昔住んでいたこともあって、庄原も働きたい病院の一つで。来てもらえるとありがたいよ、って期待してもらってるんだっていう。こんな立場の先生方から歓迎していただけると、これからふるさと枠（医師）として勤務するのに期待感とか、自分の成長を期待されているんだなっ

て、ちょっと嬉しくもありました。

青木 まだ2年生なのに、大きくなっただけひうちに、って。まさか歓迎っていうか、ようこそって言って頂けるなんて思ってもいなかったですし、ありがとうございます、っていう気持ちと、期待されてるんだな、頑張ろうっていう気持ちと、嬉しいっていう気持ちが、うん、ありました。

田中 僕は友達と3人で話しに行って、学生生活頑張りたい、（卒業時の成績上位者に贈られる）金の聴診器を持って来なさいと言われてたので、ちょっとまだ上との壁が厚いんで、頑張っていきたいと思います。



司会 2日目は医療系の映画を見て、事前に挙げられたテーマに沿ってグループディスカッションをしました。

青木 学年関係なく意見が盛り上がり、もし自分が主人公だったらあの行動は正しかったのかなとか、結構みんな悩んで、議論が深まって。すごい楽しかったです。

沼田 自分の班も活発な議論ができて、4人で議論する中で二つに割れたり、どんどん煮詰まっていくのを感じたので。1人だったらただ見て終わるんですけど、最後の発表で全然自分たちとは違う結論も聞けて、なるほどっていうのもあったんですね。深かったなと思います。

司会 グループワークってふるさと枠の中では大事にしているけど、普段の授業の中ではやりますか？

青木 お互いの名前とかを一致させるとか親睦を深めるっていうのが一番で・・・

田中 あんなに踏み入って深く議論したりはしないですね。

沼田 模範解答があるようなことですね。問題を出されてみんなで考える、みたいな。自分たちで問いを考えてその問いに関して考えを重ねていくっていうのは、冬合宿の雰囲気ならではののかなと。

少人数で学びを深めた春実習

司会 春実習はどこへ行きましたか？

青木 私は小さい頃上下町に住んでいたんで、ずっと希望していた府中北市民病院に行ってきました。みんな温かくて、ようこそ学生さん、いっぱい勉強してね、みたいな。フラット上下という福祉施設にも知り合いの方がおられて、大きくなったなあとか。自分が行きたいところを選べるし、事前に病院と相談できて、学びたいことが学べるのが良かったです。

沼田 自分は2人で安佐市民病院と豊平診療所に行ったんですけど、安佐市民病院に（初期研修医として）ふるさと枠の先輩たちが大勢勤務されていて、この子ふるさと枠

なんだけどちょっと面倒見てあげてよ、ってお世話になって。ふるさと枠の初期研修にはどういう選択肢があるのかなとか、直接教えて頂けたんですね。4年生の春で行ったので他にも、じゃあこれやってみようって、心電図を自分でつけてみたり、脳の血管が詰まった患者さんだけど、この画像分かる？とか、議論に参加できて面白かったです。低学年で行くのと違う面白さ、見る視点が変わったかなと思います。一般枠だと、病院実習の機会が少なくて、実際に先生について回らせてもらえるのは非常に得がたい経験だと思うので、ふるさと枠の魅力かなと思っております。

田中 自分はJA尾道総合病院と百島診療所に行きました。診療所では先生が細かく気配りをしてられるのが、看護師さんやチームの方たちとの信頼関係に繋がってるのかなと思いました。患者さんと触れ合うコミュニケーションを大事にされていて、笑わせるのが一番って聞いたときに、患者さんの心を掴みにいくのが地域医療ですごく重要だになって分かりました。

受験生へ一言

司会 最後に、ふるさと枠を目指す受験生に一言ずつあればお願いします。

沼田 歓迎するよっていう気持ちですかね。歴代の先輩方も、先生方とか地域でふるさと枠の教育を支えてくださってる皆様も、ふるさと枠であることを歓迎して応援して下さいるのは強く感じるので、頑張っていきたいなというふうに思っております。

青木 ふるさと枠ってそもそも広島地域医療を支えたいって思ってる人しかいないから、細かくは違ってもみんな同じ夢があるから、困ったことがあってもすぐに相談できる相手がいたり、聞くことができるのが魅力だし、そういう体制も全部整ってるし、学習の機会もあります。

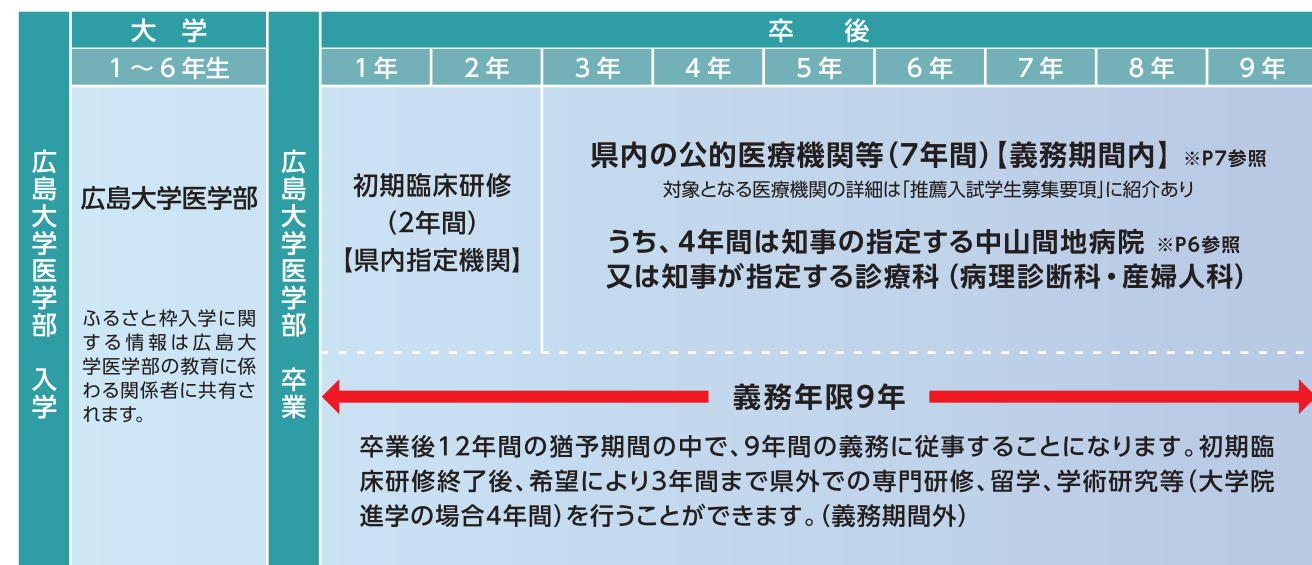
田中 自分は人の輪に入るのが少し苦手なタイプではあるんですが、ふるさと枠に入っていると、気づいたらもうその輪の中に入ってるっていう状態で、そういった面では、こういった自分でも受け入れてくれる人たちがたくさんいるっていうのが、有難いです。

司会 こんな田中くんが今年の代表を引き受けてくれたことに、感動しています。みんなで支えるから、楽しくやっていきましょうね。今日は、素敵なお話を本当にありがとうございました。

全員 ありがとうございました！



入学から卒後の進路



ふるさと枠医師の育成に関わる先生より



ふるさと枠入学制度が始まり17年が経とうとしています。地域医療の現場の楽しさや仕事のやりがいを医学生や若い医師に伝えるべく、日々奮闘しています。

地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診療、救急医療、生活習慣病などの慢性期医療、終末期医療、高齢者医療、在宅医療、介護問題、地域連携などなど、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。医師としての根源的な喜びを味わうことのできる現場といってもいいかもしれません。また、地域医療はその地域を活性化する一躍を担ってまいります。「ふるさと枠」の仲間で地域医療をもっともっと楽しく、魅力あるものにしてゆきましょう。

神石高原町立病院 副院長 服部文子



「広島県キャリア形成プログラム」について

「広島県キャリア形成プログラム」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテーション方針等を定めた標準的な育成計画です。

卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

《キャリアプランの概要》

1 ふるさと枠卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修(2年間)修了時までに、次のコース(①～③)のいずれかを選択します。

選択コース			補足等
A	広島大学病院 各診療科等所属コース	中山間地サブコース(①)	下記以外の診療科(26診療科※1) (診療科毎の標準的なプランを用意)
		知事指定診療科サブコース(②)	病理診断科・産婦人科(標準的なプランを用意)
B	地域専攻コース ※個別の診療科への所属を希望しない方	中山間地サブコース(③)	「広島大学地域医療システム学講座」及び「広島県地域医療支援センター」がサポートして具体プランを作成

2 中山間地域等指定機関での勤務について(配置ガイドライン)

- 中山間地域等指定機関を『**中堅病院**』(4機関)と『**中小病院**』(8機関)に分類※2(P.7表参照)し、中山間地域での4年間の勤務のうち、『**中小病院**』には、原則2年、少なくとも1年以上は、常勤として勤務します。(知事指定診療科サブコース(②)選択者は除く。)
- 中山間地域での勤務は、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての勤務を原則としますが、中山間地域等指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

【例】広島大学病院・中山間地サブコース(①)「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務先等	初期臨床研修 (県内指定機関)		大学病院	中山間地の中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の中小病院 内科・総合診療科勤務	大学病院 社会人大学院入学（希望者） 総合診療専門医試験	中山間地の中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の中小病院 内科専門医試験（希望者） 内科・総合診療科勤務	関連病院（指定機関） 内科・総合診療科勤務	【必要従事期間終了】		
			(大学院入学年度は、希望に配慮)									

(注)中山間地サブコース①の診療科の構成(※1)や、中山間地域等指定機関の分類(※2)は、後年において変更となる場合があります。

「広島県医師育成奨学金」について(概要)

(広島県健康福祉局医療介護基盤課)

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行っていただくことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行っていただきます。

- ◆貸付額◆ 月額20万円(6年間の総額:1,440万円)
※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日(6学年の3月末日)までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きます。(R7.4月現在の法定利率:年3%)
- ◆貸与期間◆ 6年間(大学の通常の修業年限(通算6年間)を超えることはできません)
- ◆返還免除◆ 大学医学部の卒業後から12年間(貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」)までに、別に定める基準(キャリアプラン)に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金(利息を含む。)の返還が、全額免除されます。
- 【要件1】
貸付期間の 1.5 倍に相当する 9 年間 (必要従事期間) を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等※1において医師の業務に従事する。
- 【要件2】
上記9年間(必要従事期間)のうち、4年間(広島大学病院等県内での初期臨床研修 2 年間を除く)を、次の①・②のいずれかで従事する。
- ①知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関※2
②公的医療機関等の知事が指定する診療科 (病理診断科・産婦人科※3)
- ※1、※2、※3 については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

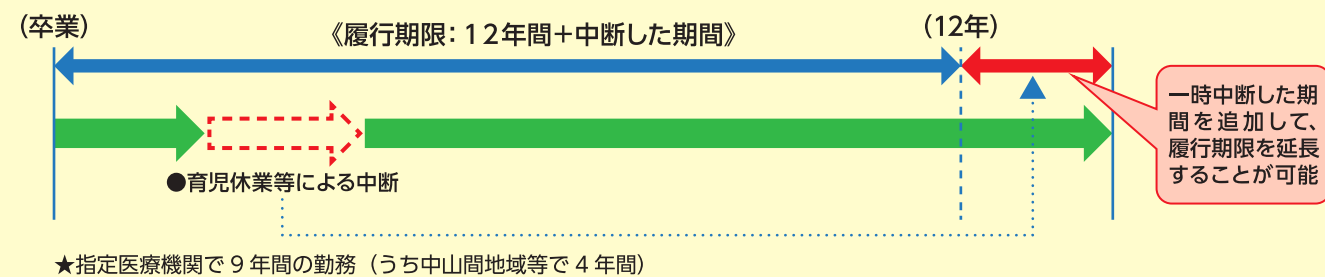
≪上記の要件を整理すると、次のとおりです。≫

- ◎貸付期間：6 年間
- ◎返還猶予期間 (免除要件の履行期限)：卒業後 12 年間
- ◎必要従事期間 (9 年間)：県内初期臨床研修 (2 年) + 県内公的医療機関 (7 年、うち①又は②が 4 年)

卒年後	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務等	(6学年)	初期臨床研修 (2年) 【県内指定機関】	3～12年目の10年間で、7年間を県内公的医療機関等で勤務、 そのうち4年間は、中山間地域等の指定機関(又は指定診療科)で勤務 (任意の3年間を使って、県外研修や留学などの機会を得ることが可能)										

※卒業後の県内勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行います。

- ◆そ の 他◆ ※出産・育児等による勤務中断の取扱い
出産・育児(又は家族介護)を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断(休業・離職等)した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加(猶予を延長)することができます。



Q & A

Q 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

A 全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません(現在は病理診断科と産婦人科が指定されています)。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指し始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

A そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

A 例えば、「初期臨床研修(県の指定医療機関)2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。